

「世界の人びとのための JICA 基金」
第 35 回運営委員会 議事録

日時：2025 年 12 月 19 日（火）11:00～12:30

場所：Teams オンライン会議

出席者（敬称略）：

【運営委員】

桑名 恵（学校法人近畿大学国際学部国際学科 教授）

山元 圭太（合同会社喜代七 代表）

門田 瑠衣子（特定非営利活動法人 PLAS 代表理事）

三宅 隆史（立教大学文学部 特任教授、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 教育アドバイザー）

中根 卓（独立行政法人国際協力機構国内事業部 部長）

【事務局】国内事業部市民参加推進課

高嶋 清史（JICA 国内事業部市民参加推進課 次長）

加瀬 晴子（JICA 国内事業部市民参加推進課 課長）

加藤 未波（JICA 国内事業部市民参加推進課）

横田 裕子（JICA 国内事業部市民参加推進課）

概要：

「世界の人びとのための JICA 基金」（以下、JICA 基金）と「世界の人びとのための JICA 基金活用事業」（以下、JICA 基金活用事業）に集中した議論を行うための「世界の人びとのための JICA 基金」運営委員会を設置し、初回の運営委員会を開催した。委員 4 名に JICA 基金・活用事業の制度説明、2024 年度 JICA 基金収支報告、2026 年度 JICA 基金活用事業の募集方針について説明し、意見収集を行った。

詳細：

1. 制度説明（「世界の人びとのための JICA 基金」「JICA 基金活用事業」）

JICA の寄附事業における JICA 基金と、JICA 基金活用事業の特徴について説明。

（1）JICA の寄附金事業の目的

寄附を通じた国際協力への参加の機会の提供、国際協力の多様化、多様なパートナーとの連携、ひいては寄附文化の醸成であることを説明。

（2）JICA 基金活用事業の特徴

寄附金「JICA 基金」を原資とし NGO 等の団体に活用する事業、運営委員会に

よる資金配分や制度運営管理、JICA と NGO 等団体との共同事業という形態、団体の支援のための伴走支援制度を設けているといった主な特徴を説明。

(3) 案件の実施管理

採択から事業開始、事業実施中、終了後の寄附者への報告の流れを説明。

(4) 過去の採択件数と直近3年度の採択案件の事業分野の紹介

2. 「世界の人びとのための JICA 基金」2024 年度収支報告

(1) 2024 年度収入（寄附受入）額・支出額

収入 32,693 千円（前年度比 50%増）

支出 34,144 千円（同 46%増）

期末残高（残余金） 107,349 千円（同 1%減）

(2) 2024 年度の傾向

①寄附受入

寄附件数：655 件（個人 589 件、法人 66 件）

②支出

内訳（主な支出）

・ JICA 基金活用事業経費 30,875 千円

事業経費（2022 年度～2024 年度採択案件のうち 46 案件） 26,074 千円

・ 運営費（寄附金収入額の 10%） 3,269 千円

3. 「JICA 基金活用事業」2026 年度の公募の方針について

(1) 事務局より、公募や審査のスケジュール（案）を説明した。

(2) JICA 基金活用事業の制度運用について

国内拠点や外部からの主な改善要望として、事業規模の拡大（事業経費の増額・事業期間の延長）があることを説明した。

4. 運営委員よりコメント

・ JICA 基金活用事業は、活動経験が少ない団体を支援して、市民社会全体を豊かにしていく目的もあるので、上記(2)①について、事業経費の上限額と事業期間拡大は団体の成長支援に有効である。

・ 現行の事業期間で団体が継続事業提案をする場合、成果が出ていない中で審査をするというのは、審査の意味が軽減するので、事業期間と事業経費上限を拡大することに賛同する。

・ 事業規模の拡大と共に人件費の扱いの改善を希望する。

以上